



## 平成 27 年 9 月期 第 3 四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成 27 年 8 月 13 日

上場会社名 株式会社ユーグレナ 上場取引所 東  
 コード番号 2931 URL <http://www.euglena.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 出雲 充  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営戦略部長 (氏名) 永田 暁彦 (TEL) 03 (3453) 4907  
 四半期報告書提出予定日 平成 27 年 8 月 13 日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成 27 年 9 月期第 3 四半期の連結業績 (平成 26 年 10 月 1 日～平成 27 年 6 月 30 日)

#### (1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27 年 9 月期第 3 四半期	4,124	88.8	323	278.4	513	324.1	321	363.6
26 年 9 月期第 3 四半期	2,184	56.4	85	14.0	121	△18.2	69	△83.2

(注) 包括利益 27 年 9 月期第 3 四半期 329 百万円 (432.2%) 26 年 9 月期第 3 四半期 61 百万円 (△85.0%)

	1 株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益	
	円	銭	円	銭
27 年 9 月期第 3 四半期	4.02		3.88	
26 年 9 月期第 3 四半期	0.92		0.87	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27 年 9 月期第 3 四半期	13,305	11,816	88.4
26 年 9 月期	11,280	10,445	92.5

(参考) 自己資本 27 年 9 月期第 3 四半期 11,767 百万円 26 年 9 月期 10,432 百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金					
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
26 年 9 月期	—	0.00	—	0.00	0.00	0.00
27 年 9 月期	—	0.00	—	—	—	—
27 年 9 月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成 27 年 9 月期の連結業績予想 (平成 26 年 10 月 1 日～平成 27 年 9 月 30 日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1 株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,923	94.4	323	127.5	536	180.6	344	191.5	4.29

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） : 有  
 新規 2社 (社名) 株式会社ユーキ 株式会社アート・コーポレーション  
 (注) 詳細は、[添付資料]3 ページ「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無  
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無  
 ④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年9月期3Q	81,473,416株	26年9月期	77,975,300株
② 期末自己株式数	27年9月期3Q	37,890株	26年9月期	150株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年9月期3Q	79,896,782株	26年9月期3Q	74,985,169株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料]3 ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

当第3四半期連結累計期間（平成26年10月1日～平成27年6月30日）におけるわが国の経済は、政府主導の経済政策や日本銀行の金融緩和政策により、企業業績の改善、雇用情勢の改善がみられ景気は緩やかな回復基調で推移しております。

当社グループの主力事業であるヘルスケア業界は、高齢社会の進展とともに、中高年齢層を中心とした健康維持・増進、美容・アンチエイジング、エイジングケアへの高い意識を背景に、特に通信販売を中心に市場規模を拡大しております。一方、参入企業の増加や低価格化により企業間の競争は厳しさを増しております。

このような事業環境のもと、当社グループでは、当社グループ独自の食品、化粧品素材である「ユーグレナ（和名：ミドリムシ）」の知名度の向上に努め、ヘルスケア製品の販売を積極的に推進するとともに、「ユーグレナ」を利用したバイオ燃料の開発、「ユーグレナ」の食品としての新機能性解明、低コスト化へ向けた「ユーグレナ」自体の改良技術に関する研究開発活動を継続しました。

当第3四半期連結累計期間は、自社製品の販売が順調に伸長し、売上高は4,124,316千円（前年同四半期比88.8%増）営業利益は323,515千円（同278.4%増）となりました。また、受託研究に係る助成金収入を計上した結果、経常利益は513,410千円（同324.1%増）、四半期純利益は321,364千円（同363.6%増）となりました。

なお、前第3四半期連結会計期間から当第3四半期連結会計期間までの各四半期の業績推移は以下の通りです。

	前第3四半期 連結会計期間	前第4四半期 連結会計期間	当第1四半期 連結会計期間	当第2四半期 連結会計期間	当第3四半期 連結会計期間
売上高（千円）	731,163	862,058	1,161,658	1,380,474	1,582,183
営業利益（千円）	25,473	56,820	59,605	129,440	134,469
経常利益（千円）	70,344	70,418	80,850	230,995	201,564

セグメント別の状況については、以下のとおりです。

#### （ヘルスケア事業）

ヘルスケア事業の食品分野においては、前連結会計年度から継続して、高利益率の自社製品販売の強化を主目的とし、広告宣伝活動及び自社製品の販売体制の強化に努めております。また、大手食品メーカーと商品開発を実施し、コンビニエンスストア及び大手食品スーパーへの商品提供を行うことで「ユーグレナ」という食品素材をより身近なものとし、知名度を向上させる活動を継続しております。

ヘルスケア事業の化粧品分野においては、自社の化粧品ブランド「B. C. A. D.」がジュピターショップチャンネルや全国の百貨店、バラエティショップ等に導入されるなど、好調なスタートとなりました。また、美容卸を中心に販売数を拡大しております。

また、平成27年5月1日に、当社を完全親会社とし、株式会社ユーキ及び株式会社アート・コーポレーションを株式完全子会社とする株式交換を実施致しました。株式会社ユーキ及び株式会社アート・コーポレーションは全国13,000店舗以上（平成26年12月末時点の累計）の販売店網を形成する大口OEM取引先の1社であり、両社が当社グループ入りする事で、両社の販売網及び販売ノウハウを取り込むとともに、物流・システムの統合等によるコスト削減が可能になると考えております。

ヘルスケア事業の研究開発においては、内閣府の「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）」における研究開発課題「未利用藻類の高度利用を基盤とする培養型次世代水産業の創出に向けた研究開発」の研究開発機関として選定されました。

当第3四半期連結累計期間における売上高は4,115,626千円（前年同四半期比88.5%増）となり堅調に推移しております。自社製品販売の顧客獲得のため広告宣伝費を積極的に投入し、セグメント利益は811,930千円（同71.4%増）となりました。

#### （エネルギー・環境事業）

エネルギー・環境事業においては、バイオジェット燃料開発を中心に研究開発活動を継続しており、文部科学省所管の独立行政法人科学技術振興機構が実施する「戦略的創造研究推進事業」、経済産業省所管の独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構が実施する「戦略的次世代バイオマスエネルギー利用技術開発事業」、経済産業省が実施する「戦略的基盤技術高度化支援事業」の委託事業に係る研究開発を行っております。

当第3四半期連結累計期間において、新たに内閣府の「革新的研究開発推進プログラム（ImPACT）」における研究開発プログラム「セレンディピティの計画的創出による新価値創造」の研究開発機関として選定されました。

また、バイオ燃料精製実証設備を建設するために必要なバイオ燃料アイソコンバージョンプロセス技術ライセンスの許諾に関するライセンス契約(Technology License Agreement)、および設備の基本設計に関するエンジニアリング契約(Services Agreement for Engineering Services)をChevron Lummus Global LLCと締結致しました。

当第3四半期連結累計期間は、DeuSELプロジェクト関連による売上高8,689千円(前年同四半期比483.8%増)を計上しておりますが、主にバイオジェット燃料開発を目的とした研究開発活動により、セグメント損失は81,007千円(前年同四半期はセグメント損失117,687千円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は13,305,813千円となり、前連結会計年度末と比較して2,025,530千円の増加となりました。これは連結子会社の増加や売上の増加等により、主に受取手形及び売掛金、有価証券、のれんが増加したことによるものです。

負債は、前連結会計年度末から653,844千円増加し、1,488,829千円となりました。これは連結子会社の増加等により、主に短期借入金、未払法人税等が増加したことによるものです。

純資産は、前連結会計年度末から1,371,685千円増加し、11,816,984千円となりました。これは主に四半期純利益を計上したこと、株式会社ユーキ及び株式会社アート・コーポレーションとの株式交換等により、資本剰余金が増加したことによるものであります。この結果、自己資本比率は88.4%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間までの業績等を踏まえ、平成27年5月13日付「業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日(平成27年8月13日)公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第3四半期連結累計期間において、新たに株式を取得した株式会社ユーキ(平成27年5月7日付で株式会社ユーグレナ・アートに商号変更)及び株式会社アート・コーポレーションを連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,346,041	6,247,683
受取手形及び売掛金	478,636	659,966
有価証券	—	462,468
商品及び製品	322,026	488,971
仕掛品	—	4,530
原材料及び貯蔵品	89,907	221,503
繰延税金資産	32,348	43,988
その他	51,637	223,966
貸倒引当金	△7,007	△2,406
流動資産合計	7,313,589	8,350,672
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	179,901	246,915
機械装置及び運搬具	156,800	231,329
工具、器具及び備品	48,898	99,241
土地	578,510	628,378
建設仮勘定	32,894	61,036
減価償却累計額	△147,482	△194,978
有形固定資産合計	849,522	1,071,922
無形固定資産		
のれん	32,384	673,432
その他	31,767	44,203
無形固定資産合計	64,152	717,635
投資その他の資産		
投資有価証券	2,982,057	3,077,363
差入保証金	59,071	67,957
繰延税金資産	11,690	20,029
その他	200	231
投資その他の資産合計	3,053,018	3,165,582
固定資産合計	3,966,693	4,955,140
資産合計	11,280,282	13,305,813

（単位：千円）

	前連結会計年度 (平成26年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	170,931	190,938
短期借入金	—	225,000
未払金	374,790	427,525
未払法人税等	30,507	178,593
繰延税金負債	—	10,449
賞与引当金	4,420	8,250
資産除去債務	6,884	—
その他	34,766	155,668
流動負債合計	622,300	1,196,425
固定負債		
長期借入金	21,700	70,616
退職給付に係る負債	8,357	8,640
資産除去債務	17,364	45,244
繰延税金負債	164,945	167,599
その他	317	301
固定負債合計	212,683	292,403
負債合計	834,984	1,488,829
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,796,493	4,826,343
資本剰余金	4,696,493	5,739,193
利益剰余金	947,977	1,269,341
自己株式	△212	△71,578
株主資本合計	10,440,752	11,763,299
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△8,800	5,192
為替換算調整勘定	—	△695
その他の包括利益累計額合計	△8,800	4,497
少数株主持分	—	35,975
新株予約権	13,347	13,212
純資産合計	10,445,298	11,816,984
負債純資産合計	11,280,282	13,305,813

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（第3四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第3四半期連結累計期間 （自平成25年10月1日 至平成26年6月30日）	当第3四半期連結累計期間 （自平成26年10月1日 至平成27年6月30日）
売上高	2,184,289	4,124,316
売上原価	842,578	1,366,749
売上総利益	1,341,711	2,757,566
販売費及び一般管理費	1,256,212	2,434,051
営業利益	85,498	323,515
営業外収益		
受取利息	10,266	24,463
助成金収入	56,942	132,692
保険解約返戻金	—	7,560
受取手数料	10,817	15,610
その他	3,813	14,446
営業外収益合計	81,840	194,773
営業外費用		
支払利息	9,702	506
持分法による投資損失	—	3,514
株式交付費	35,613	196
その他	959	660
営業外費用合計	46,275	4,877
経常利益	121,062	513,410
特別利益		
固定資産売却益	—	322
負ののれん発生益	—	3,503
新株予約権戻入益	—	135
特別利益合計	—	3,961
税金等調整前四半期純利益	121,062	517,372
法人税、住民税及び事業税	35,330	225,923
法人税等調整額	16,410	△25,074
法人税等合計	51,741	200,849
少数株主損益調整前四半期純利益	69,321	316,523
少数株主損失（△）	—	△4,840
四半期純利益	69,321	321,364



(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	69,321	316,523
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△7,398	13,993
為替換算調整勘定	—	△958
その他の包括利益合計	△7,398	13,034
四半期包括利益	61,922	329,558
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	61,922	334,661
少数株主に係る四半期包括利益	—	△5,103

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成27年5月1日付の株式交換に伴う新株発行により、資本剰余金が1,012,849千円増加しております。この結果、当第3四半期連結会計期間末において資本剰余金が5,739,193千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成25年10月1日至平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額(注)2
	ヘルスケア事業	エネルギー・ 環境事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,182,801	1,488	2,184,289	—	2,184,289
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,182,801	1,488	2,184,289	—	2,184,289
セグメント利益又は損失(△)	473,627	△117,687	355,940	△270,441	85,498

(注)1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△270,441千円は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「ヘルスケア事業」セグメントにおいて、株式会社植物ハイテック研究所を平成25年11月1日付で子会社化いたしました。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては、35,983千円であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成26年10月1日至平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額(注)2
	ヘルスケア事業	エネルギー・ 環境事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,115,626	8,689	4,124,316	—	4,124,316
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	4,115,626	8,689	4,124,316	—	4,124,316
セグメント利益又は損失(△)	811,930	△81,007	730,922	△407,407	323,515

(注)1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△407,407千円は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「ヘルスケア事業」セグメントにおいて、株式会社ユーキ及び株式会社アート・コーポレーションを平成27年5月1日付で子会社化いたしました。当該事象によるのれんの増加額は、654,657千円であります。なお、のれんの金額は取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定しております。